

2007 年度 循環ワーカー養成講座 第 6 回

「気が付くか 気付かぬかの勝負—2020 年に備えて」

講師：木内 孝氏（株式会社イースクエア代表取締役会長）

日時：2007 年 11 月 14 日（水） 18:30～20:30

会場：ノルドスペース セミナールーム（東京都中央区京橋 1-9-10 フォレストタワー）

はじめに

今日は今年最後の会なのでしっかりやって欲しいとのメールも戴きました。私の方からしっかりと話しした後、皆さんからの率直なご意見やご質問を戴きたいと思います。楽しくやりましょう。

今日のテーマでもある「気が付くか 気付かぬかの勝負」ということを最近私は頻繁に申し上げております。少し前まで仲間内で色々なことをする際に私が申してましたのは、「内容で勝負」ということでした。例えば、今日のような会を開催する際に、大抵の場合「挨拶」や「閉会の辞」というのがあるのですが、そういったものはやめて欲しいと云ってます。もしそういうことをするのであれば、そこで何を云うのかをはっきりプログラムに書いておこうと提案してました。これはしっかりとした内容のあるものをやろうという提案で、2 年くらいは言い続けて来ましたが、そう云うことを続けている内に、気が付かないことに問題があると感じ始めました。今日は皆さんにも是非「気付き」と云うことについて考えて戴きたくて、このテーマを選びました。何に気が付いていないのか、と云うことにも追々触れて行きたいと思います。



1. 日本の素晴らしさへの気付き

まず一点目です。最近の話題と云えば不景気のことばかりで、我々のキーワードは「不安」だと云われて久しいのですが、では本当にそんなに悪いのか、良いことだって沢山あるじゃないかと考えます。思い付くことが 3 ッ、4 ッ直ぐ出て来ます。例えば、お配りした女性と男性の平均寿命の資料をご覧ください。現在戦争中の国は含めていませんが、それなりの規模と認知度で、皆さんと話題に出来そうな国の男女別平均寿命を 25 ヶ国挙げてます。

それによると、日本女性の平均寿命は 86 歳、日本男性の平均寿命は 79 歳になっています。人間は少しでも長生きしようとする生き物です。太く短く生きたいとか、ある時きっぱりとおさらばする為に努力する人というのは、皆無ではないにしても少ない筈です。

先日亡くなった著名な建築屋さんは、莫大な資産を残して早くして亡くなってしまった訳ですが、「こうして頂ければ あと一年長く生きることが出来る」という方法があって、それをお伝えしたとしたら、その方は必ずそれに応じたと思います。 それ程長く生きると言うことには価値があると思うのです。 ではその価値を確認した上で日本の平均寿命の数値を見ると、「日本に生まれて良かったなあ」と少しは思えるのではないのでしょうか。 この数値の一部は 2006 年のデータではなく 2005 年のものもありますが、あまり細かいことは気にせず、大凡の他の国と自国の位置づけを確認して頂き、「日本に生まれて良かった」と感じる癖をつけてはどうかというのが、私からのご提案です。

現在 私は 72 歳ですが、70 歳の時に生命保険会社に行って、余命表を頂戴したいと申し出ました。 その表の 70 歳のところを見ると、余命は 14.5 歳になっていましたので、自分は 84.5 歳くらいでおさらばなんだな、と思っていました。 ところが最近 72 歳の欄を見たら、あと 13 年位になっていました。 85 歳までですから、少し延びている訳です。 実は私の父は 94 歳で亡くなったのですが、彼は 85、86 歳の時から、あと何年生きると言うことの計画と、自分の結末をキチンとつけて死にたいと云っていたのを覚えています。 父もある歳になると、あと何年というように数値が増えるので、中々死なせてくれないと云っていたのを思い出します。 皆さんはまだお若いので、自分のこととしては考えられないかもしれませんが、相応の歳になって来ると、中々死なせてくれないという嬉しい現象をキツト感じる事が出来ると思います。 それだけ長く生きられる訳ですから、「昭和 30 年代の日本が、20 年経ってこうなった、50 年経ってこうなった、と云うように、時間の経過を考えながら比較して生きよう」という風に、私は友人とよく話しています。

他にも良いことが色々あります。 食事のことを考えてみましょう。 今、日本の食事は非常に問題になっていて、フードマイレージの観点から云うと負荷を掛け過ぎているとか、自給率では実に 6 割を輸入に頼っていると云う話がよくされます。 このまま続けて行く訳には行かない、改善が必要なテーマですが、それはそれとして、実際に日本の自宅の食卓で口にするものを考えてみると、こんなに素晴らしい食事はないのではないかと改めて感じるのです。 私はドイツのハンブルクで生まれたのですが、これまでに合計 11 の都市や町で暮らして来ました。 そのうち日本では東京を含めて 4 箇所に住んだことがあります、5 歳になるかならないかまで海外暮らしだったので、日本食については食べるのが出遅れていました。 最初はお刺身やお味噌汁がどうしても食べられなかったことを昨日のように思い出しますが、そう云う私ですら、例えば「明日死ぬ」と言われたら、今は文句なしに最後の食事は手巻きのネギトロが欲しいと思うようになっていきます。 皆さんは如何ですか。 ずっと日本に暮らして来られたのであれば、私よりもずっと、日本食の素晴らしさを実感していらっしゃるのではないのでしょうか。 これも日本にある良いものの一つです。

それから「人のつながり」もそうです。 15 人程度のよく集まる仲間がいて、これまでも色々なことに一緒に取り組んで来たのですが、その内の一人がある時お金に困ってしまったことがありました。 そこで皆でお金を貸そうと云うことになり、夫々が 10 数万円のお

金を貸しました。 そのお金を元手に遣り繰りして、その人は見事に立ち直り、20 ヶ月以内にプラス・アルファをつけて我々に返金してくれることになりました。 お金を貸した時の幹事役の人がそれを纏めて受け取ったのですが、「プラス・アルファの分はどう分けよう、どう使おう」と云うことが議論になりました。 最終的には「ドンちゃん騒ぎをしよう」ということで落ちつき、皆で使い切りました。 貸した人にとってもあと腐れなく使い切ることが出来、スカッとした良いドンちゃん騒ぎだったと未だに忘れられません。 ひょっとしたら中国や韓国の方々もこういう使い方をするかもしれませんが、僅かな話し合いでそういう発想が出て、皆も同意するという気質はとても良いことだと思ってます。

更にもう一つ挙げれば、「親切」と云うことです。 私は 30 数年前から海外に赴任した時に大変お世話になる現地の小学校の先生方を夏、日本にお招きして、日本を2週間ほど体験して戴く行事をお世話してます。 言葉が通じない世話の焼ける日本の小学生達の世話をすることは忍耐もいる骨の折れるお仕事です。 そのお仕事を何年もして頂いている我々の幼い子供達がお世話になった海外の現地校の先生方に、何とかして少しでもお礼をしたいという気持ちから始まった行事です。 主に欧米から毎年 60 人位の先生方に日本にいらして頂いてます。 約 2 週間の日程ですが、最後のお別れの集まりでは、60 人程の先生方がグループに分かれて 2 週間の印象をお話したり、寸劇にして見せて下さったりします。 いつも大変感動的な 2~3 時間になるのですが、今でも思い出すのは、英国ロンドンの西の方から来られた小学校の先生のお話です。 彼女は「今まで日本について、色々本で読んだり人の話を聞いたりして学んで来ましたが、実際にお招きを受け、体験させて戴いた日本は、今まで聞いたり、読んだりした日本と全く違っていました。 日本に来てからのこの 10 日間は信じられない程素晴らしかった。 お礼の言葉ありません。 これからロンドンに戻って日本のことを話す時には、この経験を元に話します」と。 確かに、読んだり聞いたりして知る日本には嫌なことが並べられている場合が多いのです。 それは我々にもかなりの責任がありますし、海外のメディアの偏見もあります。 特に発展途上国の現場に行っている人達は「威張っている」とか「横柄だ」との印象を現地の方々に与えている場合が少なくありません。 これはとても残念なことです。 しかし実際に日本に来て日本人と触れ合った人は、日本人の素晴らしさ、親切さに気付いてくれているようです。

これは非常に重要なことです。 と云うのは、皆さんがご関心をお持ちのサステナビリティ、つまり、どのようにしたら地球上で持続性を実現出来るかの答えは、実は 2 つか、3 つしかないと思っているのですが、その内の一つが「親切」だと思うからです。 動物や植物、人間、そして自然に対して親切であることを忘れずに毎日を通していけば、サステナビリティに対する解決の糸口が見付かると考えてます。

因みに、もう一つの答えは「節約」でしょう。 私は何故今の日本の指導者が「節約しましょう」と言わないのか、不思議でなりません。 「消費は美德」などといふ最近まで愚かなことが言われていましたが、幸福 (Happiness) は、お金割る欲望、お金が分子で欲望が分母、その方程式で表されるとフリードマン先生は云われました。 本当に腹が立ちます。

お金を稼げば稼ぐほど幸福が大きくなるという経済学の理論ですが、そんなバカなことはな
いと思っています。この元になるケインズはもっと酷いと思います。仕事がなく不況
だったら、何もない処に穴を掘り、掘っては埋め、掘っては埋めをしていれば乗数効果で雇
用が生まれる、と言っていた訳です。地球上の自然環境には無限の可能性がある訳ではな
く、限界・制約を意識しながら、その中でどうやって生きて行くかを考えなければならない
かを考える時代です。そこでは「節約」が重要になります。かつてイギリスのサッチャ
ー政権が11年間で経済を再建した際も、当初は「倹約・節約」を訴えることから始めまし
た。国内では安いスコッチを飲むが、高級なものは輸出する、市庁の閉鎖もやりました。
徹底的な節約です。これからはそのような節約の精神が必要になると思います。皆さん
にも「親切」と「節約」の大切さに気付いて戴きたいと思います。

2. 世界の気付きと日本の遅れ

私たちがどれ程ものごとに気付いていないかと云うことについて述べてみたいと思いま
す。実はこのことについて、私はあまり日本ではオープンにお話したことはないのですが、
それはなぜかという、「自慢話をしている」と思われ、足の引っ張り合いやねたみに発展
する可能性があるからです。私は日本の致命的な欠陥は、「人のせいにする」ということ
と、「足を引っ張る」ことにあると思っていますのですが、これは大事なお話だと思います
ので、敢えてお話させて戴きます。

1月の末に、当時の首相だった安倍さんがヨーロッパにいらっしゃり、後半で英国に行か
れました。その際にブレア首相と2人で話をされたのですが、ブレアさんの最大の関心
事は「気候の変化」にあり、そのことについて安倍さんと話をしようと思った訳です。確
かにスウェーデンやデンマークの取り組みも凄いのですが、英国でも気候の変化への関心は
大変大きく強いのです。その関心事について話しかけたところ、安倍さんは全く答えられ
なかったんですね。そのことに関する英国での報道をみると、「赤ちゃんともまでは云いわ
ないまでも、小学生の水準にもなっていない」というような小さなコラムが掲載されていま
した。少なくとも当時の安倍さんには、気候の変化というテーマは全く頭になかったとい
うことです。その証拠に、その数ヶ月前に行われた自民党の総裁選では、出馬した安倍、
麻生、谷垣の三氏が夫々かなりの分量のマニフェストを発表していたのですが、その中で環
境のことは、谷垣さんのたった4行でした。正に「環境は票にならない」のでしょう。
安倍さんの頭の中に環境問題が全くなかったのも当然なんですね。そのような傾向は、何
も安倍さんや議員さんだけに限ったことではありません。私の出身大学では毎年、学長が
1月10日に最も大切な関係者200数十名集めて1年間の施政方針演説を行うのですが、驚
くことに私が過去4、5年参加しても、「環境」ということを言ったことはただの一度もあ
りません。大学のリーダーもそのような状況なのです。日本の実態とはその程度のもの
なので、ブレアさんと噛み合わなかったのも当然と云えば当然です。

一方、イギリスには、All Party Parliamentary Climate Change Group という超党派の

委員会があり、上院、下院議員が 103 名参加しているほか、民間からも何十人かが参加している大きな委員会です。そこでは、毎月一人を招いて話を聞く機会を設けています。実は私は、その委員会の代表者から安部総理がご訪英された直後の 2 月 9 日付けの手紙を貰いました。曰く「気候の変化に対する日本政府と日本企業の対応について説明して欲しい」。時間配分は「全部で 90 分。そのうちの 30 分質疑応答の時間をとって欲しい」とのことでした。いつもはテムズ川の対岸から見ているだけの建物に入って、自分が何かする事になるとは夢にも思いもしませんでしたので、さすがに緊張しましたが、恥はかくかも知れないが、失敗はありえないだろうという心意気で臨みました。60 分の説明の後、ハウエル上院議員が手を挙げて真っ先に質問されたのは、「この 50 年間に日本国民が反応した事象は、オイル・ショック以外にありましたか」。素晴らしい質問だと思いませんか。チーム・マイナス 6%や、クールビズ、ウォームビズについては「たった 30 億円の予算でこの大問題に対応しようと云うのは、全くの冗談としか思えない」という反応でした。もう 1 つ驚いたのは対応の早さです。結局 10 時から 11 時 40 分くらいまで説明と議論をした後、3 時の直行便に乗って日本に帰って来たのですが、翌日オフィスに行ったら、議事録が既に届いており「もしも修正や、添削が必要なら、5 日以内にお願ひする、返送は水曜日までに」と書いてありました。そんな風に云いわれたのでは一生懸命見ないわけにはいきませんよね。私との議論に対する彼らの結論として、以下の 3 点が書かれていました。

- ① 1 億 2000 万の日本国民をその気にさせるのは、大変な難事業である
- ② 気候変動に対して、日本政府は本腰を入れて対応していない
- ③ 2012 年の京都議定書約束期間終了後、日本には外から目標を与えないといけない

私の英語力が何処まで理解されたか、分かりませんが、1 時間の説明と 30~40 分の質疑応答を聞いて 6~7 頁の議事録をまとめ上げ、3 点の結論を付けて即座に送って来る、その対応の早さは凄いと思いました。他国である日本の取組みについての研究を、あの遠く離れた外国であるイギリスではこれだけ真剣にやっているのです。しかもメンバーには議員さんが多く含まれていて、環境以外にも取り組む多くのことがあるにもかかわらずです。そういう問題意識というか、気付きを、既にイギリス人は持っていると云うことを是非知って戴きたいと思います。私たち日本人が如何にボヤボヤしているか・・・。

一寸した経験からも、我々は日本の外のことをあまり知らないのではないかと思います。ご参考までに、一例として「100 の質問」というのを持ってきました（文末の添付資料参照）。これは、ドイツとアメリカの若者 3-4 名が「この世の中で皆が聞きたがっている質問」を集めようと思い立ち、1 年間かけて集めた 6 万を超える質問を 100 件に絞り込んだもののものです。ここには 78 件載せました。

例えば右上の黒矢印を見てみてください。時間を節約する目的の一つ一つの発明が、私達の暮らしに益々ストレスを加えているように思えるのは何故か」とあります。皆さんはどの様にお答えになりますか。外国でもストレスが非常に大きな問題になっています。

肥満が増えるのもストレスが原因と云います。

「冷えたコカ・コーラの方が新鮮な飲料水より手に入れやすいのは何故か」について考えてみましょう。数年前から、「持続性」ということについて科学的に調査・研究することに取り組み、世界中の 176 人の知見を集めて 286 頁の報告書を作成しました。これはインターネット上にも『Science on Sustainability 2006』として公開 (<http://www.sos2006.jp/>) されています。実はこのプロジェクトは、損害保険会社が全額を負担しています。何故損害保険会社がそのようなことにお金を出す気になったかと云いますと、あと 40 数年もすると、損害保険会社が支払わなければならない保険料は、自然災害その他の影響で世界の 192 カ国の全 GDP の合計よりも大きくなるという予測があり、その実像をお知りになりませんか、と問いかけたからです。この報告書を日本の国会議員全員にお送りしました。しかし、反応を戴いたのは「このレポートを 30 部戴きたい」と云われた民主党の議員只お一人でした。あとは全く反応がありませんでした。ここでも日本の環境問題への取組の鈍さを感じます。脱線しましたが、その報告書の結論の 1 つは、「産業革命以降の科学や技術の最大の失敗は、全ての人類に水を行き渡らせることが出来ていないことだ」ということです。ここの「コカ・コーラの方が新鮮な飲料水より手に入れやすい」という言葉は、この結論を見事に言い表しています。

その他の示唆に富んだ幾つかの質問をみてみましょう。「今日、勇気とは何を意味するか」というものがあります。勇気とはなんでしょうか。勇気について、果たして考えることがあるのでしょうか。「経済システムの腐敗は避けられないのか」と云うものもありますし、「利己主義が人類の失敗の原因か」というものもあります。とても良い質問です。本当にその通りだと思います。皆さん、「利己主義」という言葉の英語はご存知の方も多いと思います。「selfishness」です。でも、他人を利するという「利他主義」にあたる英語をご存知の方は、殆んどいらっしゃらないのではないのでしょうか。「altruism」と云います。「unselfish」でも良いでしょう。利己主義と利他主義、使われる頻度が圧倒的に違いますね。我々の語彙の中に altruism がないと云うことにご注目下さい。他にもあります。「あなたが希望する将来とは」と聞かれて、皆さんは直ぐに答えられますか。ひょっとすると、これに答えられないから、無責任な政治家が横行しているのかもしれませんが。皆さんは「バックカスティング」ということをご存知だと思いますが、10 年前には、この言葉を知っている人は殆んどおらず、「フォーカスティング」という言葉や考え方しかありませんでした。皆さんが「バックカスティング」する為に将来像を描くことが重要です。日々、将来像を描く努力をしましょう。それをやらないで政治家のせいにしたり、人のせいにするのは間違っています。自分が将来像を描くことが先だと思います。

このように、気付きを与えてくれる良い質問が、ここにズラリと並んでいます。しかし残念なことに、集まった全ての質問 6 万件のうちには少しはあったようですが、「100 の質問」の中には、日本から提案されたものは 1 つもありません。それも日本の現状を表しているのではないのでしょうか。良い質問だから是非採用しようというのが、日本からは出

て来ないのです。 残念なことだと思います。 一歩海外に踏み出て、世界で話題になっているのはどのようなことか、を紹介すると共に、日本人がそのような場に参加して意見を述べる事が出来ないかと考え、「Table of Free Voices」という円卓会議を日本で催したいと考えてます。 アメリカ大統領選挙の 6 ヶ月前にアメリカで、そしてその 2 年後に日本でやれないか、7 人の役員の間で議論中です。

私が参加した第 1 回の Table of Free Voices はベルリンのフンボルト大学の校庭で開かれました。 世界中から 112 人が呼ばれましたが、その中には企業の経営者と官僚は 2 人ずつ 4 人しかいませんでした。 そう云う人は呼びでない、と云う訳です。 日本では、何かというと企業の経営者ばかりを呼びたがりますが、欧米は違います。 私が尊敬する方のお一人の土光 敏夫さんがおっしゃいました。 「日本の問題の一つは、企業の経営者を高く評価し過ぎることだよ」。 日本の経営者は調整屋だ、いつもイエスマンに囲まれて 5 年も 10 年もやっていると、人間は可笑しくなるとも仰いました。 この円卓会議も同じような考え方に基づいていたのでしょうか。 その替りに誰を呼んでいたかと云うと、一番多かったのは NPO/NGO、活動家、そして著述業・作家でした。 そのような集まりに発言する日本人が参加し、議論の対象になるテーマを打ち出せる日が来るよう、皆さんも努力して下さい。

3. 21 世紀の世界

次の話題に進めましょう。 今 21 世紀に入って 7 年目が終わろうとしています、一体世の中はどのように変わって行くと、海外では考えられているのでしょうか。 9 項目ありますので、ご紹介します。

- ① 20 世紀は科学 (Science) と物理学の時代だったが、21 世紀は生物学の時代になるだろう。
- ② 20 世紀は火と機械の時代だった。 21 世紀は生命と水の時代になるだろう。
- ③ 経済問題よりも社会問題が重要視される時代になるだろう。
- ④ 20 世紀は企業中心の社会だったが、21 世紀は NPO や NGO が台頭する社会になるだろう。

④の流れには乗り遅れてはいけないと思います。 但し問題の一つは日本の税制です。 日本には、35,000 位の NPO があると聞いてますが、税制が不備の為に半分以上が死に体だといわれています。 お金がありません。 日本でも、欧米並みに「あの仕事やあの人たちにお金を出したい」という人がお金を出した時に、それが税から控除される制度に変更されなければなりません。 欧米で確定申告をする際には、寄付のための頁が設けてあり、それを申告し認められると、税金は控除されます。 日本でも制度化を急がねばならないでしょう。 10 年前に NPO 法が成立した際、その説明を聞きに行きましたが、当時の経団連の幹部は、「2 年以内に税制を変えます」と言っていましたが、法律が成立した 1998 年からもう 10 年経ってしまいました。

- ⑤ 成長(Growth)よりも、持続可能性(Sustainability)が問われる時代になるだろう。
- ⑥ 経済成長よりも、人間の成長が話題になる時代になるだろう。
- ⑦ モノよりも、智恵が大切にされる時代になるだろう。
- ⑧ フォーキャストではなく、バックキャストが脚光を浴びる時代になるだろう。
- ⑨ 中央集権社会から、分散型のネットワーク社会の時代が到来するだろう。

21 世紀はこのように予見されています。 皆さんもこれらの視点で変化を考えてみて下さい。 先ほども少し出て来ましたが、2055 年には損害保険の支払額が全世界の GDP の合計を上回って仕舞う可能性があります。 特にお若い皆さんは、自分は何をすればよいのかを真面目に考える必要があります。 指導者の 3 つの条件は (1) 先が読める、(2) 人を惹き付ける、(3) 逃げない、即ち、先見性 磁力・魅力 責任感です。

4. 気が付くか 気付かぬかの勝負

以上のようなお話を踏まえ、今日のテーマである「気が付くか 気付かぬかの勝負」ということについて、私が考える「気付いて欲しい事」を纏めたいと思います。 乱暴ですが、私見を述べます。 承服しかねる部分もあるでしょうが、それも結構です。 一緒に大いに考え、議論しましょう。

<以下配布資料からの抜粋とその説明・コメント。

配布資料の記載内容はゴシック体で表記。>

数々の戦争は、平和も安全も齎しませんでした。

今日、世界には 144 の戦争・紛争があるといわれています。紛争だらけなのです。

発達した農業は、世界の食糧事情を解決しませんでした。

食料の自給率、食生活の変化、食料の運搬距離、食の安全、生産者と生活者の関係、生活者の食からの自然の喪失、生活者の食に就いての自律の消失等、問題は広く、深い。

高度な技術は、時間的余裕も 暇も生みませんでした。

先ほどのストレスフルになるという話と通じます。 古い話ですが、私が高校 3 年と大学 1 年の間の長い春休みに銀行でアルバイトをしていた時です。 初めて卓上の計算機が海を渡ってやって来ました。 フリーデンと云うブランドの大きなものでした。 販売

促進に來たアメリカ人のうたい文句は、「これさえマスターすれば、皆さん暇になりますよ」と云うものでした。土曜日出勤がなくなり、水曜日も半ドンになり、というように、奇麗事を並べ立てていましたが、どうですか、今日の実情は？

経済学は、世界の貧富の格差を解決しませんでした。

富裕層の富は、貧困層の生活と無関係の俥でした。

最近になってウォーレン・バフェットさんがマイクロ・ソフトと一緒に、大きなファンドを更に大きくすると云う話が出てますし、バングラディッシュで始まった、貧しい人に小額を貸すマイクロ・クレジットの制度も良いことだと思いますが、依然として貧困問題は容易ならざる状況です。我が家の長女は、バングラディッシュで過した数週間ですっかり生き方を変え、東南アジアの極貧地帯でメコン・プロジェクトを進めています。

自然環境は破壊され続け、私達を取り巻く状況は危機的です。

インドネシア沖の津波で私達は 30 万を超える仲間を失いました。

象・水牛・猿・犬・猫等の動物は非常事態を知り逃げました。

近隣のアンダマン諸島の原住民も避難しました。

何故なら私達が創った現代文明を受け入れずに、経験を生かしたからです。

私達は生き残りの本能を失った初めての世代でしょうか。

自分さえ良ければ良いという「利己主義」が人類の失敗の原因でしょうか。

生き続ける生物は、生まれながらにして健康です。

自然環境には永遠に循環する持続社会が設計されています。

自然界には色々な特徴がありますが、幾つか挙げてみましょう。

1. 自然は自分で処理出来ないものは作りません。自然にはゴミがない訳です。
2. 自然では壊れても自分で修復します。
3. 自然は高温・高圧を必要とせず、常温・常圧で変化を起こします。
4. 自然では全ての物質とエネルギーが循環します。
5. 自然では自然界が供給する以上の速度で、モノやエネルギーを消費しません。
6. 自然ではモノが供給される速度と消費される速度が調和しています。
7. 生物は自分に必要なエネルギーを自分で獲得します。
8. 自然界には複雑な支え合いがあります。
9. 自然は公平で、特権階級が存在しません。「自然の法則」に従うだけです。
10. 自然は気長、数百年、数千年、数万年掛る過程もあります。

- 1 1. 自然は閉鎖系、外から唯一入って来るのが太陽エネルギーです。
- 1 2. その太陽エネルギーで自然の全ての生命が生かされてます。
- 1 3. 太陽エネルギーを生き物が使えるエネルギーに変換するのが植物です。

この変換は植物にしか出来ません。

以上の総称が「自然の法則」です。 皆さん、「自然の法則への畏敬」が自然環境問題、持続性を考える出発点です。

その「自然の法則」の設計を壊すのが、我々人類です。

人類は自然環境の「天敵」ではないでしょうか。

人類を含む動植物の生命を支えているのは、地球の薄い表面の地殻と大気です。

薄皮饅頭の薄皮を指して饅頭と言わないように、地球の薄い表面を壊していながら地球が危ないなんて云ってははいけません。

地球は微動だにしません。

問題は壊れやすい薄皮、表皮です。

私達の「利己主義」が、無責任、先送り、無関心を生んでいます。

これは三重県の知事だった北川正恭さんの文章にあります。「この日本を破壊しているは、無責任な政治家、先送りの官僚、無関心な有権者だ」とハッキリ書かれています。流石に広くはお配りにならなかったようですが、私もコピーを戴きましたので、抜粋致しました。

私達が支払うガソリン代に、世界中で走り回っている 8 億 4 千万台の自動車が撒き散らす汚染を取り除く費用は含まれていません。

汚染処理のための費用は全て先送りされ、我々の子供や孫の代にツケになってます。そこに多くの人が気付いて戴きたいですね。

経済と景気にばかり気をとられ、国内総生産が上がった、下がったと一喜一憂するように私達は何故なったのでしょうか。

戦争・テロ・犯罪・事故・汚染・健康被害はGDP/国内総生産を押し上げ、子育て・家事労働・奉仕活動は計算外で無視されています。

皆さんが毎日運動をして健康だと数値は上がりませんが、体調を壊してお医者さんにかかったり、お薬を買ったり、病院へ行けば、国内総生産は上がり、迂闊な私達を喜ばせる報道が流れる、おかしいと思いませんか。

おかしいですね。 本当にそう思います。 元来 GDP は 1938 年にアメリカの経済学者のサイモン・クズネッツが、アメリカの軍事力とドイツの軍事力を比較する尺度を作って欲しいと依頼された為に作成した指標に過ぎません。 我々の暮らしや生活水準には関係がないのです。

日本では、札幌、麗澤、滋賀県立、神戸商科の 4 つの大学の先生 4 人が、大学院の学生を使って一年半かけて、GPI というものを開発しました。 GPI とは、Genuine Progress Indicator の略で、つまり真の進歩をはかる指標ということです。 それによると、1950 年からおよそ 50 年間の間に、日本の GDP は 8 倍になっていますが、GPI は 80% 増にとどまっているのです。 注目して戴きたいことです。 是非 GDP に踊らされない国民になりましょう。

私達の障害物は、

- ① 無関心な私達、
- ② 既得権益にしがみつく人達、
- ③ 言行不一致の企業家、です。

言行不一致の企業の経営者が多くて、本当に困ります。 企業の社会的責任について、「世間がうるさいから、あのような事を云わざるを得ないんですよ」というようなことを平気で言っているの、腹が立ちました。 トヨタも頑張っているとは思いますが、本当に環境に配慮するなら、SUV (Sports Utility Vehicle) などの燃費の悪い車は売らないという方針を打ち出して戴きたいですね。 「環境に悪いから販売をやめた」と言い切った時に、「本物」だと私は思います。

私達は無関心でいてはいけません。 国民的な運動を起こさないとはいけません。 実は先日、ラジェンドラ・パチャウリ IPCC 議長にメールを送る機会があったのですが、その背景には、なんとかして無関心さを取り去りたいという思いがありました。 彼を単にお招きするだけではなく、聞きたいことを事前にお知らせして長い話をされないで済むようにしたいと努力してます。 出来るだけ真摯な態度で内容を伴った双方向の話し合い出来るように、お願いしているところです。 彼はよく日本に来て講演もして下さっていますが、彼の本当のカリスマ性は、そのような形でしか伝わらないと考えたからです。 又、ゴルバチョフ元大統領が東京国際フォーラムで開いた五井平和財団のシンポジウムに来られて仰ってました。 講演会やセミナーを 5 万回やったって意味がない。 「聞いたことは忘れる」「見たことは覚える」「やったことだけ理解する」と云う真実を忘れないで欲しいと。 実際に行動してみて初めてものごとは理解出来ると実感することが少なくありません。

無関心層に訴えるには、表現にも工夫しなければならないでしょう。先日、生物多様性についての本を出そうという話になりましたが、「生物多様性」というような表現だから嫌になってしまうので、「生き物の賑わい」という見方や表現にしたらどうか、という知恵者がいました。確かにその通りだと思います。その本は、「いきものがたり」というタイトルで出版されてますが、内容の表現もかなり工夫を凝らしています。今後も何とかして無関心な人を振り向かせる努力をします。

私達は善悪の判断基準を、自然環境に良いか、悪いかに置く生き方を始めようではありませんか。

昔からの教えが世の中で生かされないのは、私達が行動を起こして初めて教えが生きることを理解していないか、本気でないからです。

今までに、お釈迦様やキリスト、孔子のような立派な方が教えを説いたにもかかわらず、どうして、未だにこんなに問題が多い世の中なのでしょう。私はその原因の一つは、行動を起こしてこそ教えが生きるのに、それを理解せず、行動していない人が多いからだと思っています。

自分からお仲間に伝えたいことは、言葉でなく、自分の毎日毎日の行いで伝わるようにしましょう。

かつてガンジーは、「自分の毎日が自分からのメッセージだ (My everyday is my message)」と仰いました。私も、「私の毎日の行いが私のメッセージなんだよ」と言えるような人間に早くなりたいと思っています。

最後のまとめとして、これも乱暴ですが、私の現在の考え方と、行動の基本となっている十カ条をご紹介します、お話を終わりたいと思います。

<僕の基本十か条>

1. 私達の社会が巧く行かないのは、私達の「利己主義」、自分さえ良ければ良い、自分の損得、この方が得かな損かなで物事を決める為だと思います。
2. 欲張りな人達の「多数決」で色々なことを決める民主主義は、多くの問題を生みます。
3. 私達の最大の問題は、無責任な政治家、先送りの官僚、無関心な私達です。
4. 役に立たない人、悪い人達が政治の場に沢山いるのは私達の責任です。
5. この世の中では真面目にコツコツ働く人達は、苦労が続きます。
6. 景気や経済より大切なことがあります。景気が良いの悪いの、国内総生産(GDP)が上が

ったの 下がったので一喜一憂することは 考え直しましょう。

7. 自然環境の容量には限界があります。行け行けドンドンで突き進み続けてはいけません。
8. 自然環境にとって、人間は「天敵」です。
9. 生き続ける生き物は、生まれながらにして「健康」です。
10. 昔からの「立派な考え」が生かされないのは、私達が行動を起こさないか、本気でないからだだと思います。

私は44歳の時に、イスラエルでA型肝炎のビールスに侵され、5週間の入院と数ヶ月々の自宅療養を余儀なくされました。その時に決心しました。もし幸運にも、この急性肝炎から立ち直ることが出来たら、残された人生は儉約・健康・謙虚の「三ケン」で生き抜こうと。

自然環境の修復・保護が話題になる前の1979年のお話です。

その後、動物にも、植物にも、人間にも、自然環境にも「親切」にしようと決め、三ケンに親切が加わりました。毎日々々を徹底的に「親切」で通してますと、希望が湧き、元気になります。

「親切」に裏打ちされた 儉約 ・ 健康 ・ 謙虚 の「三ケン」、皆さんも 是非お試し下さい。

(この記録は、事務局・寒田が作成し、木内先生にご加筆・ご訂正いただいたものです。)

100の質問

1. 経済学を考え直す

――貧困、繁栄、そして将来への疑問

- ・経済的グローバル化は民主主義を促進するか、或いは独裁政治を強めるか。
- ・世界中の人類が必要としている食料を生産しながら、その食料を必要としている人達に行き渡らないのは何故か。
- ・女性は何故未だに不利な立場に置かれているのか。



- ・人類はアフリカで誕生したと言うダーウィンの理論が正しいとするなら、何故欧米諸国と比べてアフリカは今日遅れをとっているのか。
- ・富裕層の財産は貧困な発展途上国があるが故の富か。

- ・我々の多くの仲間が生きていく食料を手に入れ、るのに苦しんでいる時に、我々は財産の蓄積が許されるのか。



- ・経済システムの腐敗は避けられないのか。そうだとしたら解決の方法はないのか。



- ・資本主義の次に何が来るのか。

2. 私達の認識は大丈夫か

――倫理と責任への疑問

- ・利己主義が人類の失敗の原因か。

- ・アフリカのエイズに対する先進諸国の責任は。

- ・今日の教育制度で子供達の可能性を引き出せるか。



- ・企業の社会責任は本当に果たせるのか。
- ・女性の地位が確立され、女性の価値が軽視されては、社会の釣り合いも調和もないのではないか。



- ・人権が伝統的な、或いは宗教的価値と相容れない場合の解決策は。
- ・我々が人類の生命を他の生命より価値があると考える根拠は何か。
- ・如何なる時に法律を破る事が許されるのか。



3. 暴力は政治で解決出来るか

――平和、紛争、戦争犠牲者に就いての疑問

- ・政治と暴力の関係をご存知か。
- ・イランの原爆は何故アメリカやイスラエル、フランスが保有する原爆より危険視されているのか。
- ・中東に平和が成立しない理由は。

- ・大国が持つ軍事力は「自衛」の為と言われ、弱小国の軍事力は「テロ」と結び付けられるのは何故か。
- ・自分の国の政府が戦争に突入する事を防ぐ方法はないか。

- ・テロで儲けるのは誰か。

- ・過去100年の戦争では一般市民の犠牲者が著しく増えているが、そのような傾向が何故許されているのか。

- ・アメリカやその他の国が毎年計上している幾兆円もの軍事費のより賢い使い方はないのか。
- ・植民地の21世紀版はあるか。

4. 権力を理解しているか

――自由と統治への疑問

- ・民主主義より優れた制度はないのか。

- ・我々には何処に住むかを選ぶ権利はあるのか。
- ・個人の自由と社会に対する責任の境界線は何処にあるのか。それは誰が決めるのか。

- ・アフリカの人達が奴隷としてアメリカ大陸に連れて来られていなかったら、世界はどう変わっていたらうか。

- ・安全の為に我々の自由はどの位束縛されるのだろうか。

- ・今日、勇気とは何を意味するのか。

5. 人類が辿って来た道

――エネルギー、自然環境、持続可能な生活への疑問

- ・地球も自然の一部である事を知る能力を人類は持ち合わせているのか。

- ・自然環境の温暖化を止める為に、自分自身は何をしたら良いのか。又、他の人にはどう伝えたら良いのだろうか。

- ・経済発展に対して自然環境面からの制約はあるのか。

- ・中国一人一人が自動車を欲しがったら、どうなるのか。

- ・世界の資源の管理は誰の責任か。
- ・資源が再生産される速度を超えない範囲内で資源を消費する持続社会はどのようにすれば出来るか。

- ・私達は何故このように質の悪い食物ばかりを食べるのか。

- ・冷えたコカコーラの方が新鮮な飲料水より手に入れ易いのは何故か。

- ・揉め事ナシに人類全てに飲料水が行き渡る為にはどうすれば良いのか。
- ・今後、都市はどうなっていくのか。

6. 新しい世界を拓く

――文化、話し合い、お互いの係わり合いへの疑問

- ・今日報道されていない最も重要な事項は何か。

- ・何時でも、何処でも、誰にでも見聞き出来るメディアは、私達人類の為になっているのか、或いは数々の問題を生んでいるのか。

- ・我々は「真実」も「事実」も知れる今、誰がこれが真実で、これが事実と決められるのか。
- ・国を愛する心が、人間愛より強いのは何故か。

- ・アフリカから何を学べるのか。
- ・一国の文化を守る事と、世界に跨る社会創りの釣り合いをどう考えるか。

- ・都市の同質化を防ぐ方法はないか。異なる都市の異なった特徴を守るにはどうしたら良いか。

- ・テレビには強力な情報伝達の力があるが、何故人類は意味のない情報を伝える為にテレビを利用するのか。

- ・問題が多い世界を変えて行く為の「奥の手」は何か。

- ・21世紀の今日、地域の固有性、土着の特質は維持されるか。

7. 現状打破に注力する

――科学、技術、そして未来への疑問

- ・インターネットが家庭に入り込んでいる事は私達にとつて脅威であり、従来より以上に何者かに操られていくと言う事か。

- ・短期的には失う事が多くとも、長期的には数億、数千万の生命を救う目的の為に新しい技術の導入に反対する価値があるだろうか。

- ・私達は何故、その影響や意味を十分理解しないで、遺伝子工学的に変えられた食物を自然環境に撒き散らす大きな危険を冒しているのか。科学の客観性をどう考えるか。

- ・今日及び将来の社会的、経済的、政治的そして自然環境上の問題解決の為に、建築技術はもつともっと貢献出来るのではないか。

- ・人類の創造力と革新性を高揚する為に、世界の特許、知的所有権を全て開放してはどうか。

- ・何時の日か人間の脳をコンピュータ直接繋ぐ事が可能になるか。

- ・過去50年間の技術発展が軍や市場に左右されなかったら、人類への貢献は大きかったと考えられないか。

- ・時間を節約する目的の一つ一つの発明が、私達の暮らしに益々ストレスを加えているように思えるのは何故か。

8. 私達は気付いているか

――一人一人の見通しへの疑問

- ・あなたが希望する将来とは。

- ・何があなたを動かすか。

- ・あなたにとっての英雄とは。

- ・芸術の世界で最も語られる必要がある題目は何か。そしてその理由は。

- ・子供に教える必要がある最も大切な三つの価値とは何か。

- ・何処で生まれただけには関係なく、誰もが世界に貢献する機会与えられる為の教育を受ける目的で、どのような具体的な手段が考えられるか。

- ・世界の改革者たらん若者は、意欲と学問を刺激する為に、何を読み、何を観、何を経験したら良いのだろうか。

- ・神の宗教とは何か。

- ・こんなに大勢の人がいて、何故私達は孤独なのか。

- ・あなたが世界に送りたい知恵が一つあるとしたら、それは何ですか。

- ・多くの疑問への応えに對し、多くの人々に聴く耳を持つて貰う為には、どうすれば良いのか。

- あなたが世界に質問するとすれば、どんな質問か。

- ・人を殺した人を殺すのは殺人犯か。

- ・この世界で意識を高めるのにはどうしたら良いのか。

- ・生命の大切さに順位付けをするとしたら、誰が決めるのか。

- ・女性が世界を統治していたら、戦争はないか。

- ・真実と勇氣に直接の相関関係はあるか。

- ・一緒に踊れば世界は変わるか。

- ・戦争は終わるのか。

- ・神様の宗教って何？